

令和7年度 第2号

令和7年5月2日(金)発行

学校教育目標:「ひと」とともに生きる生徒の育成

学校 Web ページ



植竹中だより



目指す生徒像:気づき力を高め「元気に登校」「笑顔で下校」 さいたま市立植竹中学校

〒331-0804 さいたま市北区土呂町352 TEL 048(663)2115 FAX 048(665)6377

挑戦することの素晴らしさ

校長 上続 昌司

4月8日の始業式・入学式を無事に終え、新しい年度がスタートしました。始業式では3年生に「さすが最上級生」、2年生には「さすが先輩」と呼ばれる存在となってほしいと話しました。入学式では1年生に「大きな環境の変化である今がチャンス」という話をしました。一人ひとり、希望と不安が混ざる、新年度当初に味わう独特の感情をもちながら4月の一ヶ月を過ごしたことと思います。「初心忘れるべからず」という言葉があります。この節目の時期、特に年度の初めに湧き上がってくるような感情の高まりは、とても大切です。「この1年を素晴らしい1年にしよう!」と、大きな志をもってスタートした今の新鮮な気持ちを忘れず、取り組んでいてほしいと思います。

さて、4月の授業の風景の中に校庭で行っている保健体育の新体力テストがあり、今の自分の体力を計測する様子を見ることができます。50メートル走、ハンドボール投げ、持久走が校庭で行う種目です。特に持久走について私は注目して観ていました。男子は1500m、女子は1000mを1秒でも速くゴールすることを目標に走ります。1周目、2周目あたりは快調に走っていたとしても、その後必ずと言って良いほど苦しくなる時間があります。どんなに練習を積み重ねてきた選手であっても経験するものです。その苦しい時間を乗り越え、ゴールした時の喜びは大きく、達成感を得ることができます。走る前に立てた目標タイムより1秒でも速くゴールできればその喜びは更に大きなものとなります。もちろん、毎回良いタイムで走ることができるわけではなく、気温や自分の体調なども影響があります。それでも何とかして良いタイムで走ろうとする姿を観ていると、思わず声をかけたくくなります。授業の中では、ペアの人が通過タイムを記録しながら良いペースなのか、少し遅れているのか等を確認しながら声を掛けます。それを聞いたランナーはペースを上げたり、下げたりしながら調整し懸命に走り続けます。そして、「あと1周」「良いタイム出るよ」「あと少し頑張れ」等の声が掛かり、力の限り走り抜きます。ゴールした後の表情には、苦しい中にも達成感が満ち溢れていて、その気持ちが伝わってきます。最後の人がゴールする頃には、クラス全員から大きな声援が掛けられ、ゴール後は拍手が自然と沸き起こります。たとえ良い記録が出なかったとしても、最高の結果を出そうと挑戦したことこそが重要であり、他の種目では得ることができない経験を積むことができます。この持久走に限らず、辛いこと、嫌なことから逃げるのではなく、まずは挑戦してみる。上手いかなかったとしても悲観せず、上手いかなかったからこそ見えてくる課題と向かい合い、挑戦する素晴らしさを一つでも多く経験してほしいと思います。

